



## おにぎりのにぎりびと

「おにぎりイベント」が全国、そして海外でも、広がっているというのを、知って驚きました。日本食の王道のおにぎりのイベントを開催する人のニュースを紹介します。

“炊飯器と世界中を旅する”女性「にぎりびと」の意外すぎる正体 海外でも活躍！世の中で一番偉いのは炊飯器」と信じる神谷よしえさん物語 ヤフーニュースより）

おにぎりイベントを開催するのは、紙谷よしえさん。佐賀県・嬉野温泉の和多屋別荘で「おにぎり 神谷」として定期的に開催される朝食会は予約枠がすぐにいっぱいになってしまつてしまうそうです。炊きたてのごはんを手際よくにぎり、カウンターに並ぶお客さんに手渡しで渡す。渡されたおにぎりは、小ぶりでつやつやの丸っぽい三角。熱々を口に運ぶとスルツとほどこけ、ごはんの甘みと香りが口いっぱいに広がる。具も入っていないどころか、塩さえ振られていない「ごはんだけ」のおにぎり。それなのに誰も

「おいしい！」と目を輝かせ、そのあとにはもう無心で頬張り始める。「にぎりびと」神谷よしえさんは、お米のすばらしさを伝える「ライスツアー」を提唱。大分県宇佐市に生まれ育った神谷さんは子ども3人を育てながら、食に関わる活動を行っていた。食のイベントの手伝いをしていた時、プロの料理人が、自分たちの食事が後回しになつていくことが多い、時間がなかつたり、しつかりしたものを食べていないことに、気づいた紙谷さんが、おにぎりを差し入れすると、イタリアンやフレンチの有名シェフたちも、顔をほころばせて神谷さんのおにぎりを頬張ったそうです。「おにぎりは人を笑顔にするんだ」というのは、このとき実感したことでした。2年前の、嬉野温泉でのイベントの時、ホスピタリティを提供しているホテルのスタッフに、ホスピタリティを提供したいと思い、そこでもおにぎりをにぎりました。社員食堂でおにぎりをにぎったら、みなさん、このほか喜んで、社長さんも含めてスタッフがみんな一緒になつて食べて、おにぎりひとつでものごく盛り上がったそうです。そんな経過があつて、関わった社長さんの「うちでおにぎりをにぎってみてはいかがですか？」と申し出たことが「おにぎり 神谷」のスタートと

なつたとか。以来、海外であつても、愛用の炊飯器を携え、フットワーク軽く飛んで行つておにぎりをにぎる。「にぎりびと」という名称は、『スラムダンク勝利学』などの著作のある、スपोर्टドクターで文筆家の辻秀一さんの命名。神谷さんがおにぎりをにぎる活動を開始するときに「肩書に困っている」と相談をすると「神谷さんを見ていて、しあわせをにぎる、思いをにぎる、手でにぎる、ごきげんをにぎるイメージが浮かぶから「にぎりびと」にぎりびとの海外での活動は、次号で紹介し

### 編集後記

おにぎりを握り始めたのは、すっかり食べられない人に、ちゃんと食べさせたいという、気持ち。その気持ちでにぎつたおにぎりが、笑顔と活力があるのは、おにぎりってすごい食だと思